「とりわけ手をつくしてお舞いやしたお姿は
入綾の時などは その美しさは
ぞっと寒気をおぼえるほどどして
この世のもんとも思えしまへん」「紅葉賀」の巻より

もののあはれ――源流への旅

言霊の国日本――「ことば」はその土地の独特の気候風土が育んだ感性によって紡がれたものです。複雑で微妙に移ろいゆく京都の自然は当然そこに住む人々の心に影響しました。

平安の時代、物語はもともと読むものではなく聴くもので、語りの担い手は高位の女官「女房」でした。千年の昔京都で生まれた源氏物語を「今女房」が京ことばで語ることにより、気候風土のもたらす発想の息吹そのものが「音」となって響いては消えるその中に、源氏物語の底に流れる「もののあはれを」くみ取っていただけることを願います。

女房語り　山下智子

山下智子 プロフィール

京都市出身。仲代達矢主宰無名塾に学び、三島由紀夫近代能楽集「道成寺」「熊野」はじめ舞台、TVにて活動。2003年より声の表現中心に活動。NHKラジオドラマにレギュラー出演と作品提供。朗読劇、映像番組、文楽人形芝居での語り、電子辞書、大修館書店国文教科書CD等での朗読。「京ことば源氏物語」の女房語りを通し、失われゆく美しい京ことば、やまとの心を後世に伝えるべく各地で語り会を開き国内のみならず海外でも好評を博している。

http://www.genji-kyokotoba.jp/

国文学者・中井和子先生について

氏は生粋の京女。府立大学で中古文学の教鞭を執りながら十五年の歳月をかけて源氏物語全五十四帖を今から百年程前の京ことばに全訳されました。失われつつある京のことばや感性を後世に残すために源氏物語ほど相応しいものはなかったと、一人の京都人として誇りに思います。2009年1月永眠。

第七帖【紅葉賀（もみじのが）】あらすじ

帝が朱雀院行幸の催し物を藤壺に見せたいと行った試楽で、光源氏は頭中将と青海波を見事に舞い、人々の涙を誘う。密通により源氏の子を宿した藤壺は罪の意識で舞いを観、弘徽殿女御は源氏の美しさを呪う。行幸当日、源氏は再び青海波で絶賛を博して正三位に昇進する。

藤壺に遠ざけられ落ち着きのない源氏に正妻葵上は冷たく接し、源氏は二条院の紫上を一層可愛がる。

元旦、左大臣家で源氏は、葵上の態度に自身のありようを省みる。

二月、藤壺は源氏とそっくりな男皇子を出産、帝の喜びように二人は罪を恐れる。源氏は混乱した気持を紫上を相手にすることで慰める。ある日源氏は源典侍という好色な老女との逢瀬を頭中将に見つけられ閉口する。

帝は退位して新皇子を東宮（皇太子）に立てようと考え、藤壺を中宮に立て、源氏は宰相（参議）に昇進。弘徽殿女御は藤壺の立后を深く恨む。

かめおか桂ホール

かめおかの文化・芸術の発信の拠点として、森林の再生を願って国産の木にこだわって造られた扇形のフォルムは、日本と西洋との出会い、調和を表現しています。当日は第五十九代宇多天皇を流祖とし、伝承されている「御室流華道」の展示がございます。

京ことば源氏物語

中井和子著「現代京ことば訳『源氏物語』（大修館書店）刊」より

女房語り ◉ 山下智子

【紅葉賀（もみじのが）】七帖

令和七年
四月二十七日（日）
御室流生花展同時開催

場所 かめおか桂ホール　亀岡市中矢田町岸ノ上7の1

開演 午後二時（開場一時三十分）

料金 三千円（要予約）

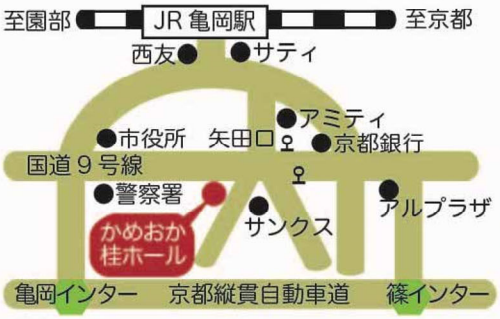
交通

お車でお越しの場合、十台分の駐車場があります（要予約）

【JR山陰嵯峨野線】
特急、快速、普通で亀岡駅下車
南へ徒歩20分。
（快速の場合、京都駅から亀岡駅まで20分です。）

【京阪京都交通バス】
亀岡駅南口 12時29分発
桂駅東口・京都駅前行きに乗車
矢田口バス停下車、徒歩3分。

【亀岡駅からタクシー】→10分



GoogleMap

お申し込み・お問い合せ

QRコードの「お問合せフォーム」からどうぞ
0771・24・2168
ゲストハウス舞舟

◉訳＝中井和子　◉音楽＝天地空　◉音響＝蓑田 毅
◉主催＝舞舟源氏物語の会　◉協力＝トラスト・ジャパン
◉後援＝亀岡市・かめおか霧の芸術祭実行委員会・京都新聞